

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 30 人

② 算数 30 人

5 留意事項

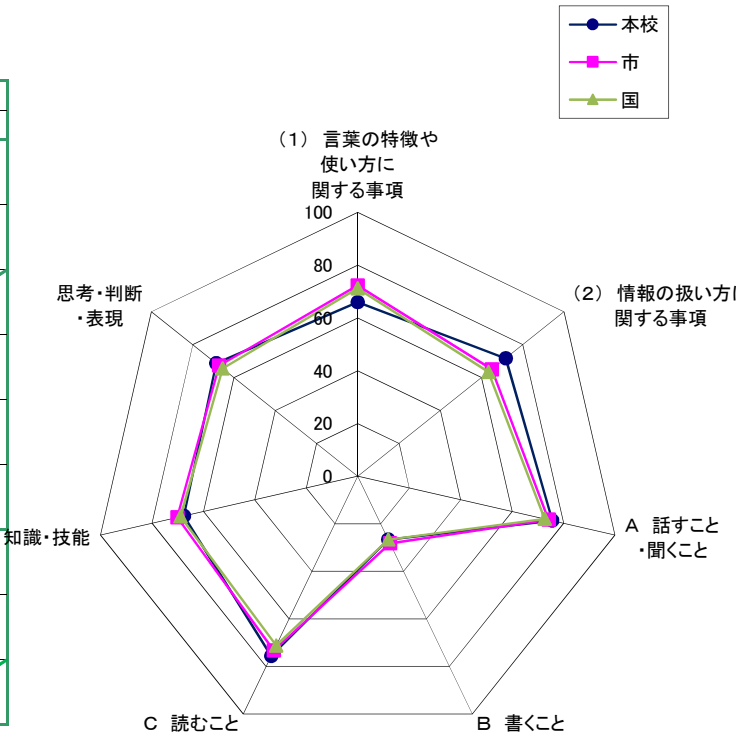
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.0	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	71.7	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.6	74.2	72.6
	B 書くこと	26.7	28.2	26.7
	C 読むこと	75.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	67.6	70.2	68.9
	思考・判断・表現	68.6	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

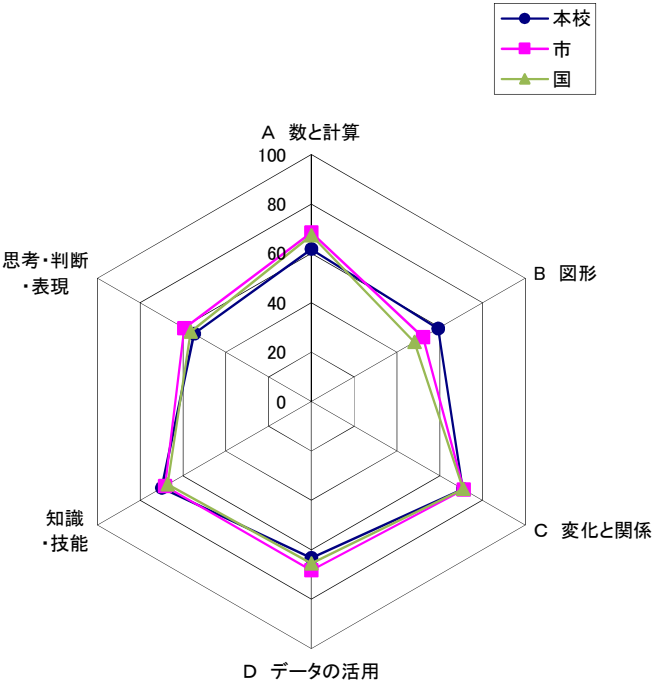
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○文章の種類やその特徴について理解しているかの問題では、正答率が全国平均を19ポイント上回った。 ○敬語の使い方では、全国平均を15ポイント上回っている。 ●漢字の書き取り問題では、正答率が国の平均よりも12.3ポイント下回っており、無回答率も全国平均よりも8ポイント以上上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習の時間などを活用し、漢字の習熟を図る。 ・既習の漢字については、無回答率が高い問題もあったので、宮っ子ステップアップテストやAIDリルを活用し、繰り返し学習することで定着を図っていきたい。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○情報の扱い方にに関する問題では、正答率が全国平均を8ポイント上回った。	・文章から情報を集めたり、図や表から読み取ったりするときなどは必要な部分にマーキングするなどして、大事な部分を見落とさないようにする指導をしていく。
A 話すこと・聞くこと	○話すこと、聞くことも問題では、いずれの問題も正答率が全国平均をやや上回った。	・友達の意見を聞いたり、話し合ったりする時に、分からないことがあったら質問をして、話し手の意図を明確にしようとする力をつけていきたい。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、それぞれの立場で考えを伝え合うなど言語活動の充実を図る。
B 書くこと	●自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかの問題では、正答率は全国平均と同程度なものの、26.7%と低くなっている。	・文章を書く活動を、日常的に取り入れる。 ・自分の主張が明確に伝わるような文章全体の構成や展開を考えることができるよう、詳しく書く必要がある場合や、簡単に書いた方が効果的である場合など、目的に応じた文章表現ができるよう指導していく。
C 読むこと	○文章と図表を結び付けて読み取る問題では、正答率が全国平均よりも19ポイント上回った。 ●文章の内容に対して自分の考えをまとめる問題では、正答率が6ポイント下回り、50%と低い。	・自分の考えをもつことや、理由や根拠を明らかにして説明することを指導していく。 ・朝の全校一斉読書や(毎週2回)や読書週間の実施、及び家庭での読書の奨励など、読書活動をさらに推進していく。

宇都宮市立中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.7	68.4	67.3
	B 図形	59.2	52.2	48.2
	C 測定			
	D 変化と関係	70.8	71.2	70.9
	E データの活用	63.3	68.3	65.5
観点	知識・技能	70.0	68.4	67.2
	思考・判断・表現	54.8	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題では、国の正答率を6.6ポイント上回った。小数の基礎的な計算の仕方や答えを基にして、条件に当てはまるかどうか判断する力が身に付いている。 ●()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る問題では、平均正答率が40.0ポイントで、領域A「数と計算」の中では正答率が最も低かった。	・四則計算の意味を理解できるように、式の意味を説明したり、言葉を用いて書き表す機会を設けたりしていく。 ・式が立っているものを計算することは正答率が良く、計算の仕方を十分に理解できていると判断できるため、文章を読み取り、式を立てる部分を重点的に取り入れるようにする。
B 図形	○平均正答率は国を11ポイント、市を7ポイント上回っている。特に高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、国の正答率を22.5ポイントも上回った。 ●正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、平均正答率が23.3ポイントで、国の正答率も1.6ポイント下回っている。	・正三角形の意味や性質を問題文と関連付けて考え、正しい知識を用いて問題を解けるようにするために、同じ形式の問題だけでなく、普段と違う考えを要する問題も取り入れるようにする。
C 変化と関係	○百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題では、国の正答率を10.7ポイント上回った。 ●伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる問題では、80.0ポイントと高い正答率だが、国の正答率8.5ポイント下回った。	・二つの数量が比例の関係であるかどうかの判断は、全体としてよくできているため、表を使って二つの数量を比較しながら考える活動は継続して行うようにする。また、比例ではない条件にも触れ、どのようにしたら比例の条件に当てはまるかなどの、角度を変えた説明をする機会を増やすようにする。
D データの活用	○二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題では、国の正答率を8.7ポイント上回った。 ●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題では、50.0ポイントで、領域D「データの活用」の中では正答率が最も低かった。	・自分の考えを表現できるようにするために、自分の言葉で書き表す活動を多くする。特に文章を書くことが苦手な児童には、使用する言葉を複数指定し、考えと言葉を組み合わせながら書き表すように指導していく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の肯定回答率は90.0%と県・国の割合を上回っているが、「毎日同じくらいの時刻に起きている」「朝食を毎日食べていますか」については0.5～4.6ポイント県や国を下回った。保健や家庭科で規則正しい生活リズムが健康に良いことを学ぶが、定期的に声掛けをしたり家庭とも連携を図ったりして基本的生活習慣を身に付けさせたい。

○「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定回答率は90.0%、83.3%と県・国の割合を上回っている。自分の長所を理解し、将来に役立てることができるよう、今後も励まし応援していきたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定回答率は80.0%と県・国の肯定回答率を上回っている。学級ごとではなく、学校全体で引き続き、悩みを話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいきたい。

○「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」の肯定回答率は80.0%と県・国の割合を上回っているが、「英語の勉強は好きですか」「英語の勉強は大切だと思いますか」については7.9～16.7ポイント県や国を下回った。国際理解に意欲的である部分を継続させるためにも、外国語の授業の改善を行い、児童にとって興味関心が湧くようなものにしていきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強していますか」に対して「あまりしていない」「全くしていない」の回答率が26.7%、10.0%と県・国よりも2.9～7.7ポイント高くなっている。マイプランを効果的に使えるように、それぞれの児童に合った家庭学習の仕方を見つめたり、励ましたりしながら、家庭での学習習慣をつけていきたい。

●「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」に対して、「どちらかといえば、役に立たないと思う」「役に立たないと思う」の回答率が10.0%、3.3%と県・国よりも1.9～7.5ポイント高かった。一方で、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」で「ほぼ毎日」と回答した割合は60.0%と県・国よりも30ポイント近く高かった。頻度に対して、児童が勉強の役に立っていると感じることができていないため、ICT機器の使用頻度にこだわらずに、児童の学習意欲や、学習効率に繋がっているかを見定めて使用していきたい。

宇都宮市立中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「知りたい」「解決したい」という探求的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「国語の勉強が好きか」「算数の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童はどちらも56.7%で、県や国の平均を下回っている。
考えを広げ深めるための学び合い活動の工夫	対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考えの交流から自分の考えを広げたり、深めたりできるような指導を目指している。 学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」についての肯定的回答の割合は、83.3%と市を下回っているが、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の質問では、肯定的回答をした児童の割合は市や県の平均を上回った。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に肯定的回答をした児童は県や市の平均を上回っていて、振り返りを次時の学習に生かしている児童が多いことがわかる。
基礎的な学習内容の定着のための取組	少人数指導や朝の学習支援、小テスト、AIDリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。	・算数の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、70%で県や国の平均を上回った。 ・国語の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、67.6%で県や国の平均を下回った。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。 また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問の肯定的回答をした児童は63.4%と県・全国の平均を下回った。 ・「1日あたりどれくらいの時間勉強しているか」という問いに対して、1時間以上と回答した児童が53.3%で県や国の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題では、県や国の平均を下回っている。 ・算数や理科の調査からも、自分の考えをもち、話し合いから考えを深めていく必要があると考えられる。	言語活動充実	・児童が自分の考えをしっかりとるよう、学習意欲を高める導入や、考える視点を工夫し、友達と学び合いながら、学習のねらいに沿って自分の力を高めていけるようにする。 ・教師が児童の学びをコーディネートしていく。 ・課題解決に合わせて、実際に書く作業と、ICT機器を併用しながら、自分の考えがうまく伝わるようにしていく。